

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第14号
 昭和56年5月10日発行
 三翠化学会
 津市上浜町1515
 三重大学農芸化学科内
 電話/津(0592)32-1211
 振替/名古屋59345
 印刷/株式会社ある
 電話/津(052)332-086

まず在学生への補助に

基金の運用

三翠化学会の存在認識 在学生の間に浸透

三翠化学会の皆様方の御協力により、約三〇〇万円の基金制度が充足いたしました。その基金の運用はまた緒についたばかりで現在運用方法を模索中ですが、在学生に対しては活発に活用されており効果を発揮しつつあります。

つい四、五年前までは在学生にとり先達達は雲の上の存在でしかありませんでした。それが現在ではいろいろな面で先輩の影響を受ける様になり在学生の間にも伝統の重みを感じられ、それに対する自覚も芽生え出て来た様に思われます。

在学生と三翠化学会とのつながりが綿密になって来たのは、昨年あたりからであり、その理由はその頃、記念事業の募金が目標額三〇〇万円を達成し、その基金運用の三本柱の一本である「在学生への補助(卒業記念品の贈呈・機関誌「こうより」への補助、農芸化学科旗の寄贈等々)が実行される様になって来たからであります。

以下にその運用の現況を報告し、この紙面をかりて募金に協力頂いた会員の方々に感謝の気持ちを表したいと思います。

農芸化学科 援旗のもとに

各学年の応援旗が贈呈されたのは昭和五十四年でありました。爾來この旗のもとにいろいろな行事が行なわれました。

特筆すべきことは、その年の秋の駅伝大会では、三年生が見事優勝し、農芸化学科創設以来初めての偉業を成し遂げたことであり、また、その陰に隠れる恰好になりましたが、四年生は五位、二年生は九位の好結果を挙げたことでもあります。昨年はそのチームの連続優勝を期待したが四年の卒業実験のため各研究室に分散し足並みが乱れ、惜しくも二位に甘んじました。

紺地に白く染め抜いた農芸化学の旗が先頭を切って進んで行くのは何處見ても感激するものがあります。

文化的な活動

「こうより」

農芸化学科機関誌「こうより」は24号を発行しましたが、もとより在籍生、教官、OBの三者を結ぶかけ橋として出されたものであります。一般に、この種の文化的な活動は、原稿集めの困難さも勿論ですが、資金面

卒業記念品の贈呈

卒業式は例年三月二十五日に行なわれますが、卒業を記念して三翠化学会から記念品を贈ることとしています。これまでに贈呈した品は、昭和五十四年はシャープペンシル、五十五年は折たたみ傘、五十六年はシャープペンシルとなっております。

これらの品は卒業延期者にも渡れなく贈っておりませんが、御霊験あらたかであり翌年には全員めでたく卒業していきなす。

もう一つの利点は、卒業式時に三翠化学会費を二分徴集してありますが、会費納入率が実に一〇〇%となり、先輩諸兄の納入率とは格段の差であります。

更に、農学部全体の同窓会である

新入生にも強烈な印象

今年四月には新しい企画として新入生歓迎会が催され、農芸化学科全員が三翠会館に集まり基金からの補助もあり盛大な宴会を開きました。席上、三翠化学会、岡田会長が挨拶され

5月31日(日)に 定期総会を開催

時のたつのは早いもので、昨午久居の神原温泉で総会を開いたのが、ついこの前のことの様になっています。もう一年も経たぬ間に、総会の時期がきました。

今年の総会は大学関係者が世話を焼くことにしました。毎年のこととマンネリ化してきて

専門分野の皆さんに、理解していただけるよう話すかを考えたい。熊沢先生から、筆者が勤務する会社が開発・上市した新しい農薬について、筆者の研究を中心とした内容で、「有機いおう殺菌剤の化学」といった講義をの御指示をいただいた。

講義を受けたことはあっても行うということなどは考えたこともなく、先生や学生さんに満足していただける内容が用意できるかどうか、まことに不安な状態に陥っていました。

講義に採用するとの辞令をいただいた。

いよいよ実施期日の迫ってきた一月前頃より準備にとりかかった。専門の内容をそのものに關しては、十分な資料やデータを持っていたが、それらをどの様な御膳立、ストーリーで非

初体験・集中講義

く初歩的、一般的な紹介から始め、何かとマスコミに批判されている農薬に対し、科学的、客観的な見方をしたいという期待も入れて、講義資料がどういった時、集中講義の日は目前に迫っていた。

先生に紹介され教壇に立つて、おどおどした学生さんから、期待どおしの先生さんからの、ほとんどの先生は筆者が在学中お世話

生を激励しました。

同窓会最年長の岡田会長が伝統ある三重高農時代からの輝かしい歴史を紹介しながら、若き新人に伝えた饒舌の言葉はさすがに、実社会のリーダーとしての貫禄と、後輩に語りかける熱意に満ち溢れた気迫とで新入生は勿論、会員を深く感銘させました。

続いて応援旗が一年生に授与され、三翠化学会の存在の認識と先輩との繋りの大切さを教えられ、意義のあるスタートを切ることが出来ました。

以上述べた様に基金の運用は、いまのところ「在学生への補助」が主なものであり、その効果を上げています。その他「三翠化学会の組織強化」と「三翠化学会に関する諸事業への補助」とについてもいろいろな御意見を参考にしながら効果を発揮する様に早急に検討をして行きたいと思っておりますので、良きアドバイスをお願い致します。

◆ 懇親会のテーマは「禁酒」
 要点は次の通りです。

日時 昭和56年5月31日(日)
 11時~15時

場所 三重大学三翠会館二階
 費用 三、〇〇〇円
 申し込み締切 5月25日
 (幹事代表 田口 寛)

◆ 同窓会は大学院一年生のハンサムな岩田君と美人の塩谷嬢の名コンビで行います。

◆ 場所は三翠会館二階大広間のタタミの上で腰をおちつけてやります。

◆ 酒は三翠化学会員の中で、三重県産の造り酒屋をしてもらわれる方々から、うまい地酒を寄附していただきます。

◆ 利き酒会を長野氏(専二)の首領と行います。一クラス一チーム三名の代表選手を出して得点を争い、優勝チームには賞品を用意します。一チーム以上出場したい場合は御相談にのります。あまり成績の悪いチームには罰ゲームをして頂きます。

◆ プロは代表選手としての資格がございませんが、例えば教

官チームのメンバーの、講義だけで実践の伴わない松島先生、利酒会ではいつも欠点をとって貰う赤木先生、よく飲めるが、アルコールが含まれているとすべて特級酒になってしまおう山口先生などは例外として認めます。

◆ クラス三名の選出は直接申し込むか、又は評議員を通して申し込んで下さい。

◆ 祭は大学祭を見て頂くことになりませんが、酒宴が長びきますと、後の祭となりませんので、出来れば11時までにすませてもらって下さい。農芸化学のテーマは「微生物」ですから、醸造OBの方々の多数御参加をお願いします。

昭和五十六年度の会費納入をお願いします。

三翠化学の発行等の会費の基本的な活動は、皆様方の会費によって行なわれていることは既に御承知のことと思いますが、郵送料や諸物価上昇の折から尚一層の御協力が必要となつて来ております。どうかよろしくお願ひ致します。

年会費は千円であり、会員の皆様には、各自の納入状況を記したカードを同封いたしましたので、お確かめの上、納入に御協力賜りますようお願い申し上げます。

なお納入の際、振替用紙の通信欄に「卒業回数」と「何年度会費」をご明記いただければ幸いです。

振替番号 名古屋五九三四五

五月三十、三十一の両日に開かれる三重大学の大学祭には、農芸化学展も併催されます。この展示会のメインイベントとして、三重県下七十数社の全酒造業者からそれぞれ自慢の地酒が提出されることになっております。三十一日は十時よりオープン

少々場ちがいな印象をまわりの人に与えてきたようです。しかし近ごろはすっかり水になんじでいます。

というの農業試験場では土壌肥料も大学よりずっと大きく仕事をし、作物の分野でも植物成分の分析をはじめ機器分析や生化学的手法も多くなつていて土壌肥料と作物とは大学で考えるほど縁遠いものではないからです。大学の学部時には熱力学からミソ、ショウユ、酒はまたまたスルメの作り方までたいへん広い分野の講義を受け

社会人一年生 農業研究者一年生から

松尾 喜義 (大26)

